

幕末に
世界一周
やってみた

7



なんじゃ!
この立派な
部屋は?!

おお!

構成 川合登志和
漫画 秋桜



わしらがワシントンで宿泊した
ワイラー・ドホテルは
これまで泊まったどの旅館よりも
豪華じゃった

正使・副使・監察の三人は
特別室(スイートルーム)に泊まり
従者以下のわしらは三〜四人で
一部屋を使うことになったんじゃが
どの部屋も絨毯が敷き詰められて
姿見や絵がかけられておった!



壁の中には瓦斯(ガス)の管が通っていて
ネジ金を緩めてマーチ(マッチ)で火を
灯す仕掛けになっておる!

この瓦斯は旅館から五十間ほど離れた所で
石炭を焼いて発生させ土中の管を通って
マーチで迎え火のように火を灯すそうじゃ
まさに奇功! 筆舌に尽くしがたいのう!

寝所には手水場がしつらえてあり
なんと湯・水が屋でも夜でも自由に使える
これも壁の中に管があるのかのう?

まんじゅうのようなものは
「セッケン」といって
油や垢がすすつと落ちる!
妙じゃのう!

シャッパ
シャッパ
シャッパ
おおー!!!

ふむふむ



寝所は一人一人個室で
それぞれ寝台が用意されておった
寝台は唐藤で編んであって
四本の足がついており
下に物を置くことができる

天井にある鍋蓋のような板から
絹の蚊帳が吊ってあって
寝台に上がったときに広げて使い
使わないときは寝台と壁との間に
押し込んでおく
虫なんぞおらんのに
不思議じゃのう…



なんととっても
嬉しかったのが
風呂じゃ！
これまでの旅館は
湯船につかることが
できなかったからの
長持ちのような湯船で
ちよっと浅いのが難じゃが
身体を洗う刷毛みたいなのは
なんとも気持ちのええもの
じゃった！

風呂を出ると
湯船の栓を抜いて
湯を落とすんじゃが
底の穴を通った湯は
どこへいくんかのう？

きゃー

湯船の上には
丸盆に穴をあけたものから
清水の落ちる仕掛けもある

これは清めの水
なんじゃろうな

いいから
早く
出てけ！

※風呂を使う時は中からヤギをかける



雪隠は湯殿の隣にあり
便器は陶製の鉢が箱型に
収まっておって
腰かけて使うので
持ちちにはええ！
ってわしの事じゃ
ないぞ！

中には常に湯があって
用が済んで紐を引くと
水と一緒に底の穴に
流れる仕掛けじゃ

船上の雪隠は横長の箱に穴が
いくつか空いているだけのもの
で座って使うにしても日本人には
足が浮いて落ち着かんかった

嗚呼素晴らしきかな
ウイラルツホールール！
ここで一句！

わがくに
かぜ
なびく
えびすぐき
吾国の風に靡や夷草

…なぜ便所の前で
詠んでるんだ…？

風
風
風



実はこの謁見の儀の打ち合わせが前日に行われ使節側は予行演習がしたいと申し出でいたのだが大統領の都合が合わずぶっつけ本番になってしまった



正使・副使・監察役は狩衣以下の者は布衣や素襦などの正装でホワイトハウスへ赴いた

ワシントンに到着した翌々日には国書を渡すため大統領との謁見の儀が行われた



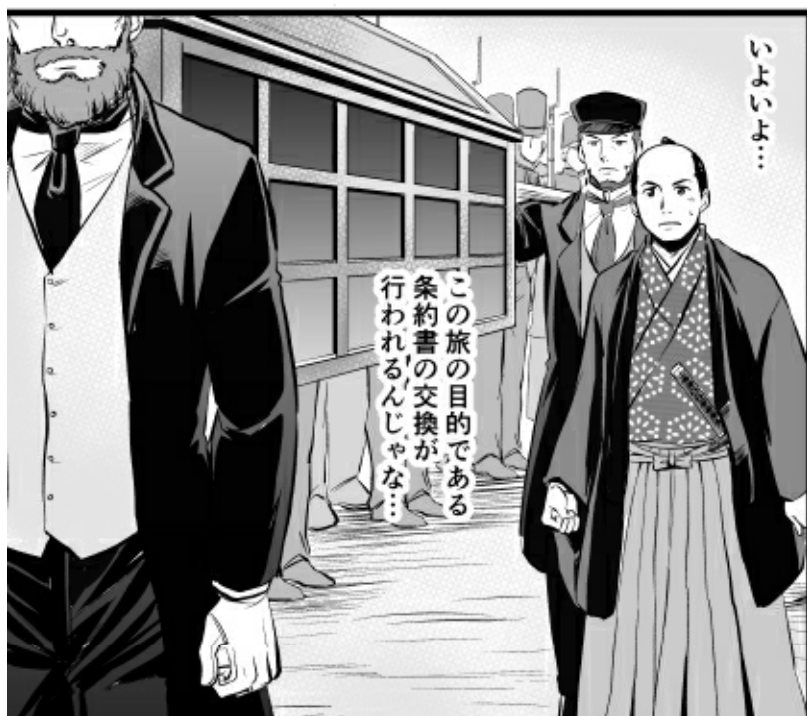
写真を撮って新聞に載せて全国の人々にみてもらうんだ

何をしておるのじゃ？

聞けば土産の宝物は大統領個人のものにならずに国の宝として保管するそうじゃ



さてわしらは伊勢屋チームは後日行われる条約書交換の時に渡す土産の品を開封確認してホテルに飾り付ける作業をする事になった



いよいよ...

この旅の目的である条約書の交換が行われるんじゃな！



四月三日(五月二十三日) 条約交換の日

さて我々も御用品を届けるために随行する素毛と鉄五郎は同行するように

はい



条約交換も無事に終わり
我々の役目も果たせて
一安心じゃ



そうですね

.....



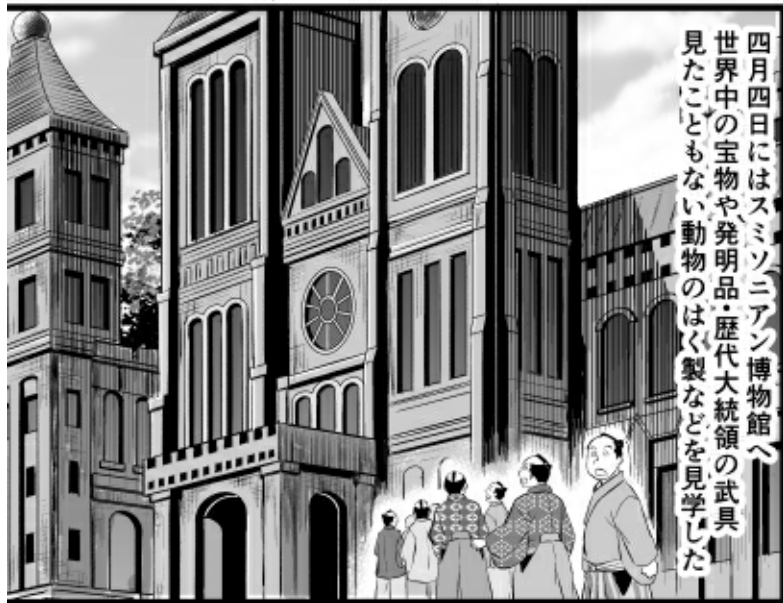
たかどの
高殿やこがね白かねきらびやか



その夜ホテルに帰館した
素毛たちは、
子どもたちの踊りを鑑賞して
楽しいひと時を過ごした

「おつかい
どうですか」

「一句、
おつかい
どうですか」



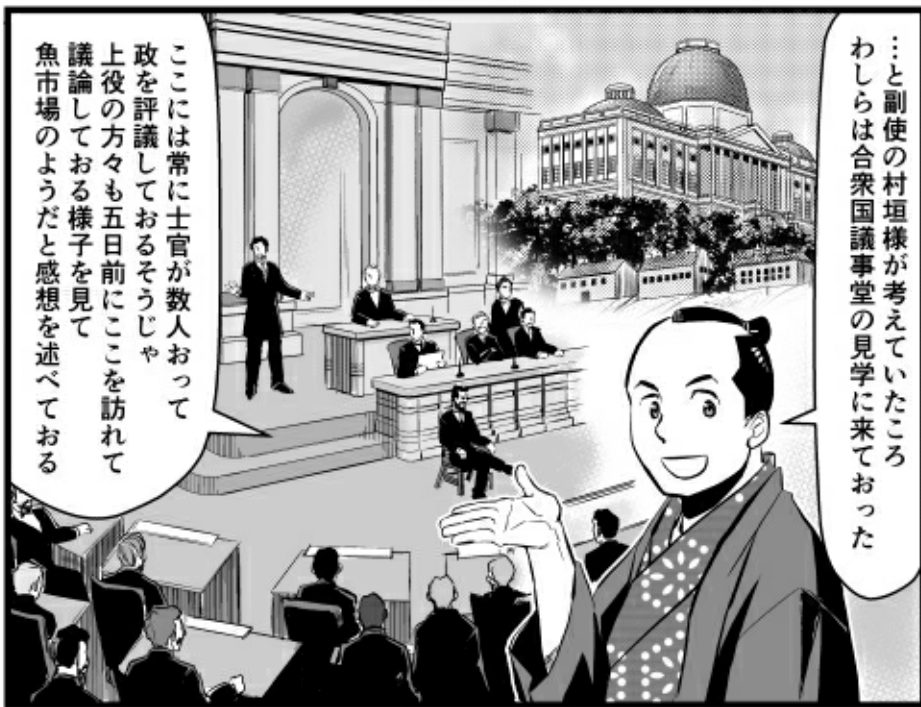


ワシントンに着いてからというもの、正使ら上役の方々は外出に訪問客の対応にと多忙な日々を送っていた。四月四日には合衆国議事堂を、五日には海軍工廠を見学した。

海軍工廠は軍艦だけでなく、小銃や大砲の部品や玉、船舶用の鉄などを加工する溶鉱炉まであり、ほとんどが蒸気機関を動力としていた。

見学した者皆が驚愕し日本にもあったらと思うほどの施設であった。監察の小栗豊後守はこの時の経験から、帰国後横須賀造船所の建設にまい進する。

歓迎委員 デュボン大佐
 従者の楠さん？
 小人目付 栗島彦八郎
 通訳 立石得十郎
 外国奉行支配定役 松本三之丞
 副使 村垣淡路守
 正使 新見豊前守
 監察 小栗豊後守
 船定組頭 森田清行
 外国奉行支配組頭 成瀬善史郎



ここには常に士官が数人おって政を評議しておるそうじや。上役の方々も五日前にここを訪れて議論しておる様子を見て、魚市場のようだと感想を述べておる。

…と副使の村垣様と考えていたころ、わしらは合衆国議事堂の見学に来ておった。



四月九日
三使らは天文台を見学
この先進的な国に我が国から留学生を送ることができたら…



めずらしや
異国ぶりの舞おどり
素毛らがワシントンでの滞在を楽しんでいる間に、往路は喜望峰を周る行程に決定された。

その夜条約交換を祝って、ホテルでは宴が催された。



驚いたのは、寒い時には温かい風を、暑い時には涼しい風を送る仕掛けがあることじや。

第8話へつづく

次回予告



素毛はホテルのレストランに
思い入れがあるらしく
日本人のマナーの悪さに失望

しかし何も言えず
帰国後にこのことを不満げに語った



そのレストランで
日本人の誰もが絶賛した
あの食べ物に出会うことになる

んっ...
んんんんん!

※言葉には
ならない

ホテルの部屋にはたくさん椅子があつて
どうやって使えと思つたんじやが
日本人のほとんどは椅子をよけて
絨毯の上に座つてたんじやよ
部屋に備えられていたもののなかに
尿瓶もあつたんじやが
枕のかわりに使つた人もあつたそうじや

素毛
おぼろ